



# 今月の共催イベント

**岐阜県大垣市・揖斐郡**  
**啓発演劇で「絆」を育み「いのち」をつなぎたい**

骨髄バンク啓発演劇「いのちと絆」公演を3月19日、20日、27日、4月3日の4日間に行われ、岐阜県骨髄献血希望者会「いのち」代表・田中重勝様のご協力を得て上演致しました。大谷貴子さんを主役とした脚本構成は、ご本人の監修ではじめて書きおろされたオリジナル脚本です。骨髄バンクが設立されるまでの経緯や、さおりさんとの「絆」を胸に苦難と立ち向かう大谷さんの姿が映し出されております。多くの方が骨髄バンクを良く理解することができたと感動してホールから出てこられました。お客さんの多くは心か

嬉しい報告です！  
 東京もとても暖かかった4月15日、骨髄バンク認定病院でもある亀田総合病院(千葉県鴨川市)構内緑地の散歩道沿いに植えられた「フクロクジュ」が開花したとの連絡が、病院関係者

## ありがとうサクラもしかしたら開花第二号？



から千葉骨髄バンク推進連絡会に届きました。写真を送ってくれた守衛さん曰く、特に院長先生から「大事に育てて欲しい」と言われているのだそうです。カラーでお見せできないのが残念ですが、ピンクがとても鮮やかです。

## 心からのご寄付に感謝申し上げます

3月21日～4月20日

㈱タクトコーポレーション	現金	10,000円
エグゼキューブ(株)	現金	700円
熊本火の国ロータクト	現金	113,952円
山田 康博	現金	9,880円
鈴木 純子	現金	1,340円
黒田 多喜男	現金	3,000円
中野 義樹	現金	10,000円
日新火災海上保険(株)	切手	19,496円
匿名	現金	5,000円
●白血病患者支援基金		
㈱北越ケーズ	現金	288,021円
㈱クスリのアオキ	現金	334,076円
㈱クスリのアオキ	現金	4,925円
(有)ヴァンティアンコーポレーション	現金	2,168円
●佐藤さち子患者支援基金		
骨髄バンク患者支援の会(新潟)	現金	297,045円
NPO法人 さくら歌劇団	現金	40,993円
MRIインターナショナル,INC.	現金	46,000円
樋口 勇一	現金	2,000円(敬称略)

**活動資金の援助をお願いします**  
**銀行口座**  
 三井住友銀行 新宿通支店  
 普通 5666655  
 郵便振替口座  
 00150-4-15754  
 特定非営利活動法人  
 全国骨髄バンク推進連絡協議会

## ブロックセミナー報告

◆近畿

2月26日、和歌山ビッグ愛和歌山県和歌山市にて総勢22名が参加して近畿ブロックセミナーが開催されました。

まず当協議会副会長の野村氏から、「わが国の法整備に視点を置いたアメリカ造血細胞バンク事情今昔」が報告されました。近畿地区のボランティアには初めて耳にする内容も多かったため、大変勉強になったと参加者から感想を頂きました。各地団体の意見交換では、各会の活動報告が中心で、日常の登録会や患者支援の活動をより良くしようとする参加者各自がそれぞれに質問されていたことが印象に残りました。近隣の団体でも個性や特色が違うので、良い情報やアイデアは共有できるように、今後もブロックセミナーは続けていきたいです。最後にビッグ愛の会場準備やマスコミへの取材依頼等、今回の開催に当たって大変ご尽力いただいた「ひこばえ」北山氏はじめ会員の皆様方に感謝申し上げます。(森脇)



今後の活動に役立つ正しい知識を得る事が出来ました。第2部では「わが国の法整備に視点を

## 各地のタよりお寄せください

### 新潟県加茂市 骨髄ドナー助成 全国初の制度化実現

夫婦で「NPO法人骨髄バンク命のアサガオにいがた」でのボランティア活動を始めて、今年で3年目を迎えました。

色んな場所でのドナー登録会や説明会に参加し、投げかけられる質問は決まって、「仕事を休めない」「休んでいる間の補償はあるのか」などでした。提供する意思はあっても周囲がそうさせてくれない、もつと制度を良くしないと登録者数を増やすことは難しいのではな

いか……私達の大きな課題でした。当会は、全ての患者さんが望むときに骨髄の提供を受けることができることを願ひ、まずドナー登録しやすい環境作りを力を入れています。その最初の

一歩が、今回の助成制度でした。今までなぜ、なかったのか？ ボランティア歴の浅い私達はとも不思議でなりません。健康人にとつての非日常的な経験も

置いたアメリカ造血細胞バンク事情今昔」と題し、全国協議会の野村正満副会長よりアメリカ視察の報告が行われました。初めて耳にする内容ばかりで少し戸惑いも感じましたが、ボランティアとして今後どう関わっていくかを改めて考える機会となりました。

講演終了後は各地の活動報告があり、岐阜の会より6月に開催されるボランティア大会についてもお話いただきました。お忙しい中、ご講演いただきまして先生方、今後の活動に役立つ内容ばかりで有意義な時間をいただいたことに感謝致します。(あいちの会)

そうですが、社会人が仕事を休み、家族にも何らかの負担をかけなければ成し得ない骨髄提供というボランティア。実際妻が骨髄提供をしたことがあり、これがボランティアでいいの？ ずっと腑に落ちずにいました。きつとこの20年間ボランティアをやつてこられた方たちは、行政へ何度も働きかけてこられたのだと思ひますが……

実際、要望書を提出し、何度も足を運び働きかけました。何か月も音沙汰がなく、諦めかけました。が、ついに諦めきれず、粘り続けた結果実現しました。周りの方の協力、支援のおかげです。加茂市から発信したこの制度が全国に広がることを期待し、助成により一人でも多くのドナー登録者が増えることを願うばかりです。

加茂市骨髄・末梢血幹細胞ドナー支援事業助成金交付要綱(案)の抜粋です。  
 「骨髄提供の為に入院及び、通院する市内在住のドナーに対し1日当たり2万円を助成する。平成23年4月1日から実施す

## 骨髄バンク NOW

(財団マンスリーJMPP(4月15日発行)より抜粋)

も、余震等の状況に応じコーディネートの実施を適宜調整するとともに、迅速に関係者に周知してまいります。  
 なお、東北地区事務局は被災のため東京の事務局において業務を行っていましたが、復旧作業を行い4月11日から業務を再開しました。今後の東北地区のコーディネートに関する報告書送付やお問い合わせ等は、従前どおり東北地区事務局へご連絡ください。  
 ●非血縁者間末梢血幹細胞移植の実施について  
 このたび、骨髄バンクを介した第一例目の非血縁者間末梢血幹細胞移植が実施されました。移植を受けた患者さんは昨年12月に登録し、ドナーの方の確認検査、最終同意を経て本年3月に移植が行われました。  
[http://www.jmdp.or.jp/documents/file/07\\_about\\_us/press/press\\_11\\_3\\_18.pdf](http://www.jmdp.or.jp/documents/file/07_about_us/press/press_11_3_18.pdf)  
 ●末梢血幹細胞移植導入に伴うコーディネート支援システムの更新  
 昨年10月に導入された「末梢血幹細胞移植(PBSCCT)」の全国展開を目指し、コーディネート支援システムにPBSCCTに対応した機能追加を行うシステム更新作業に、本年(4月)から着手しました。また、これと同時に、現行のシステムが5年経過したこと、システム基盤の全面更新も行い、来年度の本格稼働を予定しています。  
 ●骨髄採取後、急性C型肝炎を発生した事例について  
 2月上旬に骨髄バンクを介して骨髄提供した30才代の男性の方が、提供後、約40日後に急性C型肝炎を発生していることが判明しました。現在、ドナーが入院している施設からの報告では、対症療法により症状は改善傾向にあるとのことです。  
 財団では、早速、調査委員会を設置し、今後、感染ルートなどについて情報収集、調査を行うこととしています。調査結果につきましては、判明次第ご報告します。

■3月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム／1,057人、献血併行型集団登録会／1,282人、集団登録会／16人、その他／59人

◆日本骨髄バンクの現状(平成23年3月末現在)

	2月	3月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,545	2,414	380,457	495,939
患者登録者数	192	241	2,654	32,558
骨髄移植例数	101	86	-	12,779
20歳未満ドナー登録者	-	128	14,417* 1</td <td>-</td>	-
51歳以上ドナー	290**	88**	22,215**	-

(注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。  
 \*1) 17年3月～ \*2) 51歳以上ドナーの延長数 \*3) 51歳以上ドナーの新規登録数 \*4) 17年9月～

## 骨髄バンクの最新情報をお知らせする

●平成23年度の事業計画と予算について  
 3月31日に開催された第40回通常理事会・評議員会において、平成23年度の事業計画と収支予算が議決、承認されました。詳細はホームページをごらんください。  
 ●4月からの財団役員等について  
 財団の理事、監事、評議員の任期(2年)が平成23年3月末で満了し、3月31日開催の通常理事会・評議員会において一斉改選がなされました。財団では、23年度に予定している公益財団法人への移行に際して、理事会、評議員会が一新されることから、今回の一斉改選については、それまでの間、一部交代を除いて、基本的に現在の役員等の方々に再任いただくことになりました。  
 役員名簿はホームページに掲載しています。なお、前常務理事の平井全氏については、国家公務員出身の常勤理事という立場であったことから、厚生労働省の方針に基づき、常務理事を退任されました。その後、理事については4月8日開催の臨時理事会において、理事長、副理事長、常任理事の互選が行われ、下記のとおり、新しい体制がスタートしました。  
 ○理事長：正岡徹 ○副理事長：齋藤英彦、伊藤雅治  
 ○常任理事：加藤俊一、小寺良尚、佐々木和利、鈴木利治、橋本明子  
 ●平成22年度の移植数、ドナー登録者数等について  
 平成22年度の移植数は1,192件で、過去最高だった前年度より40件の減少となりました。内訳を見ると、[国内ドナー→国内患者]が1,181件で33件の減少、海外バンクを介した[海外ドナー→国内患者]が6件で1件の増加、[国内ドナー→海外患者]が5件で8件の減少でした。  
 平成23年3月末現在のドナー登録者数は380,457人で、前年度末と比べ23,079人の増加となりました。新規ドナー登録者数は36,667人で、前年度(33,859人)と比べ2,808人の増加でした。年度で見ると4年ぶりの増加ということになります。これを登録窓口別に比較すると、献血併行型登録会が22,671人(前年度比2,043人増加)で最も多く、次いで日赤固定窓口(献血ルーム等)が11,942人(前年度比724人増加)でした。集団登録会や保健所での登録も増加しています。また、都道府県別で見ると埼玉県での登録者が、緊急雇用創出事業による献血ルームでの説明活動等により、前年度と比べ2千人以上の増加となり全体の数字を押し上げました。  
 一方、患者さんについては前年度より60人多い、2,684人(国内：2,055人、海外：629人)の方が新たに登録されました。  
 ●東日本大震災への対応について  
 東日本大震災に伴い、財団では震災対策本部を設置し、3月14日、17日、および4月14日に「東日本大震災に関するコーディネートの対処方針について」により関係者にコーディネートの方針を通知しました(ホームページに掲載)。  
 4月7日以降、宮城県、福島県等で強い余震が頻発し、ライフラインへの影響や地域の交通機関の運行状況が不安定になっていることから、当面、東北6県での新規コーディネートは見合わせます。今後と

## 鳥取県鳥取市 鳥取でも患者会設立



小池・加茂市長様から、白血病治療の骨髄移植ドナーの入院・通院を強力に助成する。と心強いお言葉を頂きました。(高野)

鳥取県で初の血液疾患患者家族会「だんだんの会」が4月10日に設立されました！  
 きつかけは、昨年6月の「患者会を作るにはどうしたらいいですか？」の電話でした。2年前、同じ病室に入院し偶然再会された高校の同級生。無事退院されたお二人が発起人となり、

7月に開催した最初の準備会には11人が集まりました。ご自分の病気が日常の不安を話し合われるだけで終わりましたが、また参加しますね」と皆さん嬉しそうだったのが印象的でした。青森「まるまる」の柴谷さんが親身になってアドバイスをしてくださり、7回の準備会を経

て迎えた設立総会。但馬史人先生はじめ米子医療センターの積極的な協力もあり、但馬先生の記念講演に患者さんの講演をセットで開催したところ、なんと127名もの来場者が。

講演後の総会にも多くの方が残られ、当日のアンケートには会員希望が64名。懇親会では、役員の皆さん涙々で感激されていました。  
 「だんだん」は、こちらの方言で「ありがとう」の意味を持ちます。まだスタートラインに立ったばかりの「だんだんの会」ですが、支援する会としてできる限りのサポートをしながら、一緒に歩んでいけたらと思っています。(加登脇)